

「JP1」と「CYBER GENIUS」の連携で システム監視の効率化と大幅なコスト削減を実現。 死活・稼働監視とジョブ管理を「JP1」で一元管理

日本各地に1,100店舗を超える広範な店舗ネットワークを展開する株式会社 エディオン。同社はシステム監視の効率化とコスト削減を目指し、監視システムを刷新。新たな監視システムは、グループのIT企業である株式会社 エヌワークが開発したサーバ・ネットワーク管理ソリューション「CYBER GENIUS」と日立の統合システム運用管理「JP1」を連携し、JP1の統合コンソールで一元管理している。それぞれの長を活かすことで、約2,300台のサーバやネットワークなどを効率的に監視している。監視システムのコストは半分近く削減し、監視作業の効率化が進んだことで、障害の予防・早期発見も向上した。



株式会社 エディオン
情報システム本部
情報システム部
部長
山本 健三氏



株式会社 エヌワーク
営業本部 営業部
部長
八神 善彦氏



株式会社 エヌワーク
営業本部 営業部
副部長
深谷 基行氏



株式会社 エヌワーク
業務運用本部
ファンリティサービス部
アシスタントマネージャー
藤井 智康氏

競争力を高めるための 戦略的なIT投資を推進

事業統合と組織再編を重ね、日本各地に1,100店舗を超える広範な店舗ネットワークを展開するエディオングループ。株式会社エディオン(以下、エディオン)が展開する関東地方の「イスマル」、中部地方の「エイデン」、近畿地方の「ミドリ」、中国・四国・九州地方の「デオデオ」と、株式会社サンキューが展開する北陸・北海道地方の「100満ボルト」という5つのブランドで、地域特性に応じた柔軟な営業戦略を実行している。

2010年10月の子会社合併によるエディオンの組織再編に伴い、各社が個別に使用していたシステムを同年11月に統合。組織およびオペレーションを一本化し、経営資源を一層効率化できる体制を構築した。

日々の店舗運営に影響を与えないためにも、システムの安定稼働はエディオンにとっても欠かすことのできない重要なテーマだ。

「POSシステムがわずかな時間止まっても、お客さまは離れて行ってしまいます。システム障害は、ビジネス機会の損失だけでなく、お客さまの信頼を失うことにもなるのです」と山本氏は説明する。

そこで同社は、システムの二重化・冗長化やバックアップについては万全の仕組みを

構築し、早くから24時間365日の監視体制を敷くことで、障害の予防・早期発見に力を入れてきた。さらに、競合他社との差異化を図り競争力を高めるために、戦略的なIT投資にも取り組んでいる。

「『買って安心、ずっと満足』という当社の経営理念を具現化していくためにも、既存システムにかかるコストはできるだけ削減し、電子マネーによる決済など、お客さまの利便性を高める新たなシステムへIT投資を振り向けていきたいと考えています」(山本氏)。

優れた操作性や高い信頼性で 以前から「JP1」を評価

システム監視の効率化とコスト削減も課題のひとつだった。それまで利用していた監視ツールでは、しきい値の設定などが複雑で使いにくく、コストが高いなどの問題を抱えており、より効率的な監視システムが構築できないかを模索していた。そこで、グループのIT企業である株式会社 エヌワーク(以下、エヌワーク)は、自社開発したサーバ・ネットワーク監視ソリューション「CYBER GENIUS」と日立の統合システム運用管理「JP1」を組み合わせた監視システムを提案。従来の監視ツールからCYBER GENIUSとJP1へ移行することで、システム監視の効率化を図り、コスト

USER PROFILE

株式会社 エディオン
www.edion.co.jp
 本社 大阪府大阪市北区堂島1-5-17
 堂島グランドビル
 設立 2002年3月29日
 資本金 101億7,400万円(2011年3月31日現在)
 従業員数 17,117名(2011年3月31日現在)
 「買って安心、ずっと満足」を経営理念に掲げ、オリジナル商品の開発・販売、長期修理保証を含むきめ細かなアフターサービスなど、エディオングループならではの付加価値を追求。

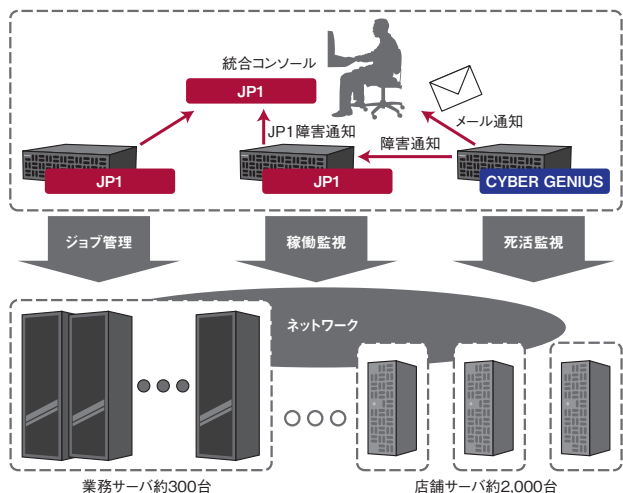
株式会社 エヌワーク
www.nwork.co.jp
 本社 愛知県名古屋市千種区覚王山通8-70-1
 池下ESビル5階
 設立 1991年4月21日
 資本金 3,000万円
 従業員数 154名(2011年4月現在)
 エディオングループの情報システムを支えるIT企業。流通分野で蓄積したノウハウを活かして、グループ外の企業や官公庁向けのシステムも開発。クラウドサービスを中心としたオンデマンドなサービス提供に注力。



日本各地で5つのブランドを展開。左から関東地方の「イシマル」、中部地方の「エイデン」、近畿地方の「ミドリ」、中国・四国・九州地方の「デオデオ」、北陸・北海道地方の「100満ボルト」。



(株)エディオンの新監視システム概要



を大幅に削減できると判断したエディオンは、エヌワークからの提案を採用した。

具体的には、サーバやネットワークの基本的な死活監視をCYBER GENIUSが担当し、重要なサーバなどの高度な稼働監視をJP1が担当。それぞれの特長を活かすことで、効率的なシステム監視を実現している。

エディオンはジョブ管理ツールとしてJP1を以前から活用しており、認定資格講座を20名程が受講するなど、JP1の優れた操作性や高い信頼性、教育・サポート体制の充実などを評価。エヌワークもデファクトスタンダードとしての安心感やこれまでの経験から、バッチ処理などの高い信頼性も評価していた。

「複数のシステムを統合したので、バッチ処理によるシステム連携を確実に運用できることは、システム全体の安定稼働に欠かせない要素です」と八神氏は評価する。

さらに、ポイントソリューションとして必要な機能から導入して、トータルソリューションへとスムーズに拡張していける点も評価された。

死活・稼働監視とジョブ管理を「JP1」で一元管理

CYBER GENIUSとJP1の連携による新たな監視システムは、業務サーバ約300台と店舗サーバ約2,000台を合わせた約2,300

台のサーバやネットワークなどを監視している。

なお、CYBER GENIUSによる死活監視とJP1による稼働監視・ジョブ管理の情報は、JP1の統合コンソールに集められて一元管理されている。さらに、CYBER GENIUSによる死活監視とJP1による稼働監視は、監視対象のサーバに負荷をかけないエージェントレスで実行しており、ソフトウェア同士の干渉を引き起こす心配もない。

「CYBER GENIUSには、シンプルな操作性や豊富な監視項目、エージェントレス監視、レポート機能の充実など、当社が監視サービス・業務で培った技術とノウハウが集約されています」と深谷氏は語る。

CYBER GENIUSは、通信キャリアなどのクラウドサービスを視野に開発されており、必要な数を必要な期間だけ使える柔軟なライセンス体系やマルチテナント対応など、「クラウド時代の監視ソリューション」に求められる要素を網羅している。

「JP1との連携を実現したことで、大規模システムへのソリューションとしても幅広く提案していけるようになりました」(八神氏)。

ビッグデータの活用など 先進技術の提案でも日立に期待

監視システムを刷新した結果、監視作業は

シンプルになり、大きく効率化が進んだ。

「一画面で各種監視情報とジョブ管理の状況までを見られるので、オペレータの作業も楽になりました。また、障害発生時に自動送信されてくるアラートの内容もわかりやすい」と藤井氏は話す。

「監視システムのコストも、以前と比較して半分近く削減できました」(山本氏)。

監視作業の効率化が進んだことで、障害の予防・早期発見も向上した。

「ディスク容量やCPU使用率などがしきい値を超えるとアラートがあがってくるので、おかしな動きをしている場合には、レポートをさかのぼってチェックし原因を突きとめています。こうした動きを日常的に行うことによって、システムダウンを未然に防ぐ効果が向上しています」(藤井氏)。

エディオンは、「小さく始めて、大きく拡張できる」というJP1の特長を活かして、資産管理や配布管理、インシデント管理などの導入も検討している。

「今後もお客さまサービスの充実を図り、競争力を高めていくためにも、ビッグデータの活用など先進技術に関する提案を日立には期待しています」と山本氏は語る。

エディオングループの戦略的なIT投資とシステムの安定稼働を、今後もJP1と日立が支えていく。



●記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

お問い合わせ 記事に関しては、株式会社 日立製作所 ソフトウェア事業部 販売推進部 TEL.03-5471-2592
 製品に関しては、HMCC(日立オープンシステムウェア問い合わせセンター) ☎0120-55-0504(土、日、祝日を除く 9:00～12:00 13:00～17:00)
 携帯電話、PHS、一部のIP電話など上記フリーダイヤルがご利用いただけない場合:TEL.03-5439-2733

JP1
www.hitachi.co.jp/jp1/